



物流ニュース

NO. 96

2012年3月

カンボジア物流事情

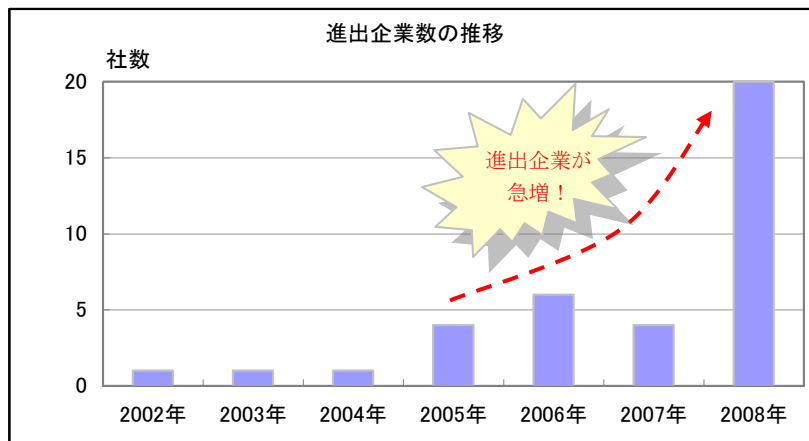
はじめに

カンボジアはインドシナ半島南西に位置し、タイ・ラオス・ベトナムにアクセスしやすい好立地に位置しているが、これまでカンボジアは物流市場としての魅力は小さく、タイ～カンボジア～ベトナムの物流の経由地としての位置づけであった。しかし、チャイナプラスワンの生産拠点候補の一つとして今カンボジアが注目を浴びてきている。すでにカンボジアへ生産拠点をシフトする日系メーカーも出始めており、物流企業も進出企業のニーズに対応するため拠点整備やサービスが本格化している。本稿では現状のカンボジアの進出状況とインフラ事情について考察する。

1. 進む日系企業の進出

カンボジアはインドシナ半島南部に位置し、東はベトナム、西はタイと国境を接している。ベトナムのホーチミンからカンボジア国境まで約70km、タイのバンコクからカンボジア国境まで約300kmと隣国の消費地に非常に近い好立地にカンボジアは位置している。しかし、これまで隣国であるタイ、ベトナムには多くの日系企業が進出をしているが、カンボジアへの進出はほとんど見られなかった。しかし、ここにきて中小を中心とした日本企業の進出が始まってきている。2011年には20社の日本企業がカンボジアに進出しており、在カンボジアの日系企業も69社（日本人商工会会員ベース）と年々増加している。特に日本企業のカンボジアへの進出機運が高まる契機となったのが、精密機器メーカーであるミネベアが中小型モーターの生産工場をカンボジアに設立したことである。外資の機械部品メーカーによるカンボジアへの大規模生産拠点の設立はこれが初めてのケースで大きな注目を浴びている。

図－1 日系企業の年間の進出企業数の推移



出所：JETRO 資料より作成

2. なぜカンボジアが注目されているのか？

昨今、タイやベトナムで人件費の高騰や労働力の確保が難しいことからカンボジアへの魅力が高まっている。カンボジア進出の最大のメリットは、若い労働力を集めやすく、かつ人件費が低いことである。実際にタイに進出した企業の中では工場における労働集約的な工程をカンボジア工場に移管させたケースも見られる。また、ホーチミンに進出した企業でも労働力の確保が困難になったためカンボジアに移転したところもあるという。

次に大きなメリットとしては、外資系企業の投資に対する支援制度が充実していることが挙げられる。カンボジアには複数の SEZ（特別経済地域）が整備されており、部材の輸入にかかる関税や法人税の減免措置など外資系企業の投資に対する特典も充実している。また、一部政府機関では日本人スタッフも配置されており、申請手続きも円滑にできるケースも増えている。このように中小企業が進出しやすい環境が整備されていることが、カンボジアが注目を集める理由にもなっている。

図 - 3 カンボジアの人口動態

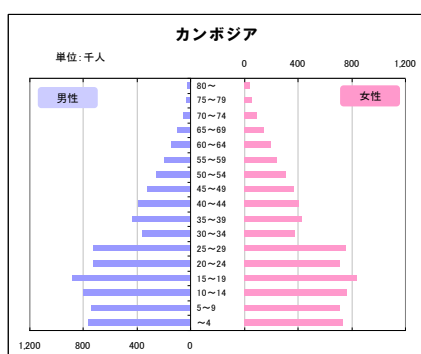
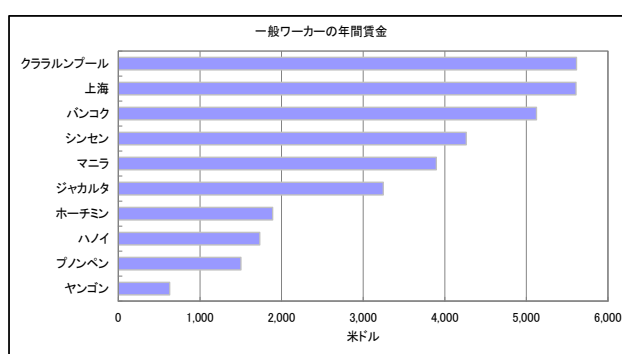


図 - 4 アセアン各国の月額賃金



出所：UN World Population Prospects: The 2010 Revision

出所：JETRO 第 21 回アジアオセアニア主要都市／地域の投資関連コスト比較（2011 年 4 月）

3. カンボジアの物流インフラ

カンボジアの道路は内戦によって壊滅的なダメージを受けたが、ようやく基本的な整備が整いつつある。国道（国道 1～8 号線）は合計 2,117km で、すでに舗装工事が完了したとの報告も聞かれる。特に、ホーチミン～プノンペン～バンコクを結ぶ「南部回廊」はカンボジアにとっても重要な幹線道路となっている。南部回廊は路面状況も良好でスムーズな走行が可能である。今後南部回廊を利用してカンボジアとタイ・ベトナムといった周辺国の中で生産分業が可能になってくると思われる。しかし、乗用車や二輪車が縦横無尽に往来し、渋滞や事故を引き起こしていること、幹線道路以外の道路の路面状況は劣悪で国内の細かいネットワーク網が弱いといった課題も残っており、更なる道路整備が喫緊の課題となるだろう。

カンボジアの鉄道は、タイ国境のポイペトとプノンペンを結ぶ北線（385km）と、港湾のあるシアヌークビルとプノンペンを結ぶ南線（264km）の 2 路線がある。しかし、鉄道の多くが内戦で破壊された上、十分な改修も行われなかったため、現在もほとんど利用されていない。しかし、オーストラリアの民間企業によって全線でリハビリ工事が進められており、今後カンボジアの重要な輸送インフラの一つとして役割を果たすことが期待されている。

写真-1 プノンペン郊外の様子



写真-2 リハビリ中の鉄道



カンボジアは今後更なるインフラ整備が進めば、食品（加工）・機械部品・自動車部品などの様々な産業が参入していくことと予想される。まだ電力不足・通信インフラ不足など、多くの課題を抱えているものの、今後の経済成長や産業の拡張余地や近隣国との物流連携を考えると、大きなメリットがあると思われる。

KEY WORD: SEZ (Special Economic Zone) ※特別経済地域

SEZ(Special Economic Zone)とは国の投資・輸出関連産業の拡大、雇用の機会を創出することを目的として産業基盤整備された、産業集積拠点として期待される経済特区のことで、プノンペン近郊、シハヌークビル、ベトナム、タイとの国境エリアで開発が進められている。また、法人税の減税や部材の輸入に掛かる関税および付加価値税が0%になるといった優遇措置のメリットがある。

日通総合研究所 経営コンサルティング部